

## まちづくり懇談会 大井

日時：平成 30 年 10 月 17 日（水）午後 7 時～8 時半

場所：消防防災センター

---

### 4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■企画部長 今日には役員中心にお集まりなので、大井町の取り組みについて簡単に紹介する。本来なら地域自治区から説明頂くと細かく説明して頂けるのだが、時間の関係で私から簡単に説明する。

大井町の地域計画。現在恵那市では第 2 次総合計画といって平成 28 年から 37 年の 10 年計画で本年度 3 年目の事業を実施している。この計画に合わせて 13 地域でそれぞれどういう取り組みを 10 年間するかを定めたものが地域計画である。平成 27 年度に策定頂いているので、当時の役員は中身を承知してみえると思うが、この内容からまず紹介する。

キャッチフレーズ。平成 37 年の大井町の姿を、「いき（生き）いき（活き）おおい」と定める中で、計画の柱を 4 つ立てて、それに沿って事業を実施する。1、安心安全で快適に暮らせるまち。2、歴史文化と自然が調和した元気なまち。3、健康で心豊かに暮らすまち。4、町民みんなで子育て支援が出来るまち。

事業を実施して頂くに当たり、市から補助金、交付金を交付している。今年度、大井町の単独事業として 6 つ申請して頂き 107 万 6 千円を交付決定している。その他、長島町との連携事業で 1 事業、68 万円を交付決定。その他、交付金といって、特に使用目的がないものを交付している。これは 13 地域の均等割と人口によって調整し、大井町が一番大きな額 188 万 3 千円で、合計 363 万 9 千円で事業を実施して頂いている。

主なものを紹介する。大井町地域防犯パトロール隊の活動。実施主体は地域防犯パトロール隊。目的は安全で住みよい地域社会の実現を図る。内容は小中学生の下校時間と夜間のパトロール。平成 20 年はこの活動が評価され内閣総理大臣賞を受賞されている。

災害に強いまちづくり。計画の柱 1。実施団体は自主防災隊ほか。目的は自分たちの地域は自分たちで守る。内容は地域ごとの防災講習会、ワークショップの開催、地域の防災リーダーの育成。

大井町の芸能フェスタ。計画の柱 2。実施団体は芸能フェスタ実行委員会。歴史文化の伝承と世代間交流を目的として、町内で活動する芸能団体や児童生徒らが一堂に会して日頃の練習の成果を披露する。本年は 11 月 11 日に開催予定。

中山道のれんコンテスト。計画の柱 2。長島町と大井町の連携事業。実施団体は中山道のれんコンテスト実行委員会。目的は交流人口の増加と地域内の活性化を図る。連携で事業展開。応募作品も中山道沿いの軒先に展示。今年は 11 月 3 日から 23 日に実施。

大井町の健幸推進の取り組み。計画の柱 3。実施団体は健幸ウォーキングの会。目的は、ラジオ体操とウォーキングを通じた健康づくり。11 月 25 日に第 3 回を開催予定。場所は恵那峡周辺約 3km を使ったコース。

子育てサロン。計画の柱 4。実施団体はお〜いカフェ実行委員会。目的は子育て世代を中心に世代間交流の推進。内容は子育てママ、パパが集まるランチカフェ、毎月 1 回福祉センター 2 階の和室で開催。

「いき（生き）いき（活き）おおい」を目指して、前川会長の下、まちづくりに取り組んで頂きたい。

#### ■市長 大井町の状況と事業等について。

大井町の人口は合併当時 13,245 人、直近では 12,979 人。世帯は増えている。平成 17 年を 100 とすると、恵那市全体では -10.9%だが、大井町だけだと -2.0%。各町の中で一番減少率が少ない。生まれる子どもの数。平成 17 年 130 人。多少増えたり減ったりしているが、平成 29 年 121 人。これに、移動した人、例えば平成 25 年は 126 人生まれてその後 4 年間に 7 人引越して来て、今は 133 人の子どもがいる。平成 28 年は 96 人生まれ、12 人が他の地域へ出て、今は 84 人いる。他の地域は年を重ねると増えていくが、大井町は少し減るケースもある。小学校と中学校の生徒数。今年大井小学校は 298 人の児童、第二小学校は 426 人の児童。1 年生の子が 6 年生になる平成 35 年度、大井小学校は 288 人、第二小学校は 428 人。中学校は、平成 30 年度 458 人の生徒、35 年度は 396 人。

事業について。市道の交通安全対策。恵那病院の入口、下り込んでくるところの見通しが少し悪いので、交通安全対策を予定しており、工事に入る。

市道の舗装修繕。1 つは土ヶヶ根観音寺線。中津川境の辺。215m の舗装の修繕をする。長島奥戸線、銀の森から阿木川の方に向かってきたところ、延長 120m の舗装の修繕をする。

中山道の宿場町大井地区の都市再生事業。道路の舗装をしている。平成 29 年に 294m。今年度すでに完了しているが 376m。本陣の前と市神神社のところの舗装をすでに完了している。原西交差点から恵那峡に向かい、JR を越える鉄橋がある。この橋の補修も今設計をしている。中山道は水道の配水管の更新もしている。平成 30 年は舗装の前に 255m の水道管の更新をした。

城ヶ丘こども園。指定管理に出しているが、地域からの要望も頂いたので、内装の改修、トイレの改修、防水、LED 化をしている。東中学校は 29 年度に特別教室、管理棟、技

術教室等を大規模改修し、平成 30 年度は普通教室の大規模改修をしている。

恵那峡は平成 26 年から 30 年の計画で、今年ほぼ最終年で、多目的広場の整備、第 3 駐車場、ビジターセンター、市道の工事をしている。

リニア建設関連の進捗状況。30 年度これまでの状況は、J R 東海からの地域説明等に関しては岡瀬沢で 1 回と聞いている。3 区・13 区は用地立ち合いを実施している。7 区・8 区は 3 回の説明ということで、付け替え道路等の協議を行っている。その他、恵那市としてまちづくりに関する地域説明も行っている。大井町基盤整備計画意見交換会を 1 回行った。大井町の区長会への報告も 1 回、7 区・8 区のリニア対策委員会役員への説明も 1 回行った。

行在所の件。10 月 9 日に前川会長以下、地元の市議会の皆様方から要望書も頂いた。行在所を何とか整備するという、長屋門をこの場所で一体的に整備・活用するという提案。何とかこれに向けて動いていきたい。

中山道語り部の会が平成 5 年からスタートしている。観光案内のボランティアとしては草分け的な存在で、岐阜県の中でも古くからの活動だ。平成 30 年も 17 回で 1,277 名をご案内した。大変感謝申し上げます。

魅力。1 つは、中山道大井宿。本陣も残っているし、美術館もある。また、恵那市の中心部である。恵那駅が一番真ん中にあり、恵那駅前中心にまちなか市などのイベントも先日行われた。賑わいの中心でもある。また、恵那峡周辺では恵那川上屋、銀の森のように大変にぎわっている和菓子屋さんを含めた店舗がある。こうしたところも恵那市の顔になっている。大井ダム。1923 年、もうすぐ 100 年の日本初の大型ダム、発電所もあるし、国宝の武並神社がある。

## 5. 意見交換

■市民 10 歳から 5 歳の子どもを持つママさんを支援する子ども連れで参加出来るサロンを毎月 1 回開催している。子どもも親もゆっくり過ごせて楽しいと毎回 20 組以上の参加者がある。子育て中のお母さんたちがどんな支援がほしいか毎回アンケートを取っている。ニーズを把握することもまちづくりには大切だ。一番多く要望があるのが、公園がほしい、遊具を増やしてほしい。今年は特に夏が暑かったので、子どもを連れて遊びに行くところがほとんどない。元気プラザぐらいだ。公園で遊ぶにも、阿木川公園も日陰がない、日陰がほしい。水で遊べる遊び場をつくってほしいという要望が多くあった。例えば恵那峡の公園とかバローの横の中央公園、中央図書館の横の公園、あそこに 1 つすべり台があるが、暑い日には滑るところがすごく赤らんでいて子どもが滑れない。あれは問題だと私も思う。どんな遊具がほしいかは、砂場が一番多かった。アスレチック、コンビ遊具、今はやりの小さい子が楽しむものだが、それらがほしい。恵那市では公園に遊具をつくろう

という計画はないか。

■市長 特に小さい子どもを持つ人は、安全に遊べるということで公園、そこで遊べるための遊具が必要だと考えていると私も想像した。今までは区画整理の区域内に、図書館の横の公園や正家の区画整理の中でも公園を少しつくったが、遊具、砂場という要望を頂いたので、持ち帰り検討する。なるべく実現出来るように考えてみたい。

■司会 自治連合会から質問がある。

■自治連合会会長 1つは、市の危機管理体制について。昨今、各地域で想定外の災害が発生している。恵那市でも大規模地震、洪水等、大規模災害での対応を主に考えられていると認識している。しかしながら、恵那市、特に大井町地域で発生しやすい災害は、昨年と今年発生した断水、そして停電が考えられる。停電は当地をはるか離れた場所で起きても影響を受ける。九州、中国、関西、北海道も災害による停電で大変な思いをしている。停電が発生すると照明はもとよりガスも使えず、時間の経過後には水道も止まる状況にある。炊事も出来ずトイレも使えず、風呂にも入れず、電気も点かずと、大きな生活不安を与えてしまい、乳幼児、女性、高齢者にとって大変な事態となる。現在避難所に対応するトイレは数も少なく使い勝手も決して良いとはいえない。特に女性にとっては難儀であると感じる。大規模停電で個人の住宅でトイレが使用出来なくなることも想定出来る。このような場合にはどうすれば良いか。断水に対する行政の危機管理体制は出来てきたと感じているが、停電等の災害が発生したときの危機管理体制についてお聞きし、また、危機管理体制マニュアルの整備状況もどのようになっているか教えて頂きたい。

■市長 9月4日、5日の台風21号、大変風が強いものだった。そのとき一番問題になったのが、風により倒木が起き、倒木により電線等が切れて停電が起きることだった。それもかなり想定外に長時間にわたる停電で、色々ところで課題が浮き出てきたと考えている。

■危機管理課長 台風21号、特に風による倒木で、倒木が電線に引っかかったり電柱を倒したりということで停電が発生した。倒木は125件あり、9月4日の最大瞬間風速22mで私もヒヤッとした。

市の危機管理体制を説明する。市では台風が来ると災害対策本部を立ち上げる。「こういった道路が通れない」などの連絡を頂く。中部電力に情報を市から確認して、情報収集するのが第一になる。それは停電の場所、見込み。それを収集して市は市民に伝える。ホームページ、音声告知器、屋外スピーカー、電話対応でお知らせする。この間、災害の度合いが大きかったので、中部電力と市の関係各課で検証している。大きく二点検証している。一つは、情報収集の仕方と伝達。停電エリアは中電のホームページに載っているが、大井町の一部という表示がしてあるが、自治会や字の表示が出来ていないので、この間の

協議のとき、エリアを頂ければ市が音声告知器で停電の状況を伝えることが出来るという話をした。復旧の目途は、ホームページで、復旧見込みと調査中という2つの文言が出てくるが、いつどのぐらいの時点で復旧するかが表記されていないので、それも何とかならないか中電にお願いした。情報収集員、中部電力の社員に災害対策本部に来て頂き情報交換するという事も協議している。

もう一つは、倒木をいかに除去するかが課題になる。電線に架かったものは市で対処することが出来ないなので、市の建設課から中電に伝えて倒木を取り除くということをして頂いている。その依頼は、今は電話が入った順に対応して頂いているが、優先順位を付けて対応して頂けないかと。例えば病院、避難所、幹線道路など。あとは、倒木が起きると、市民から連絡を頂き有り難いのですが、同じ箇所の連絡が何回もあると作業も遅れてしまうので、確認をしたところはテープで表示して「処理済、対応中」という表示が出来ないか、協議をしている。

もう一つは、有事の前に、事前に伐採が出来ないか。森林の管理を個人でして頂くのが大変難しくなっているので、市と中電で協力をして、地権者の了解を取る必要があるが、事前に伐採出来ないか協議している。

以上が公助、市で出来る対応で、何かしら形になるものをお示ししたい。

また、お手洗いの対応は、自分の家庭で出来ることでは、携帯用のお手洗いがある。外に出ると簡易トイレも展示してある。そういうものを用意して頂くのも一つの手だと思う。もう一つ、マニュアルは、市のBCB計画、地域防災計画にも定めてあるが、大切なのはどう動けるかで、実際に動ける形のをこれから作っていきたい。

■市民2 土地の件。ある人の土地を100坪、恵那市が黙って使って、4月に恵那市の市長印をもらった。ここに押してある。それから話し合いをずっと、色々な人を介してしてもらっているが、何の回答も出ない。本人も寿命が短いので何とか早くしてほしいと言っている。この危機管理状態でどうしてこんなことが早く出来ないか。今、職員の名前を出そうと思ったけど出すなと言うから。この件は前川さんにもやってもらったが、だめだった。こんな危機管理体制ですか。

■副市長 その案件は私のところまで上がっている。その件については弁護士も入れて、行政手続きの関係で、どうしたら良いか、担当課に指示がしてあるので、ぜひ担当課としっかり話してほしい。

■市民2 専門家が入ってずっと4月からやっている。どうしていちいち弁護士が入らないと行政は出来ないのか。

■副市長 過去の経緯があるので、しっかり行政的な手続きをしないといけないので、弁護士と相談しながら行っている。

- 市民2 開示をしたが何も出てこない。どうして書類がないのか。
- 副市長 担当が話したように、残念ながら書類は見つかっていない。それは事実。
- 市民2 それなら分かった時点でなぜ対応しないのか。本人は返してほしいと言っている。
- 副市長 そこは行政手続きの考え方があるので、その辺も担当とよく話して頂きたい。
- 市民2 弁護士を使うなら職員は要らない。最初から弁護士を置いておけば良い。
- 副市長 顧問弁護士という相談役もいるので、顧問弁護士という立場もある。
- 市民2 行政のことだから、市のことでしょ。なぜ解決が出来ないのか。
- 副市長 ですから市の職員だけの考え方で良いのかどうかということを弁護士も入れて相談している。
- 司会 時間の関係もあるのでそれ以降の話は個人的に行って頂きたい。

■市民3 都市計画税について。恵那市では特別税として都市計画税を大井町、長島町の住民から徴収している。なぜ徴収対象が大井町と長島町だけなのか。その根拠は何なのか。それから、ホームページを見ると、都市計画税は都市計画に利用するとなっているが、都市計画とは何か。この税金を何に使うのかということが明確になっているのか。それから、恵那駅の北側の開発はほとんど計画されていないと思うが。その辺も含めて説明頂きたい。

■市長 都市計画税は、都市計画区域の中で、都市計画に関する事業について、その財源として、固定資産税 1.4%+0.3%をお願いしている。都市計画区域というのは旧恵那市全域だが、その中で、用途地域が指定されている大井町、長島町は、みなし的に都市計画の市街化区域と見られている。その区域は住宅が密集していることもあり、都市計画事業の中でもとりわけ下水道事業、都市計画道路、都市公園の財源として都市計画税を使っている。例えば、30年度の都市計画税は予算的には2億7800万円だが、このうち約1億は下水道事業への繰出金で、下水道事業の運営に充てている。榎ヶ根公園等の都市計画公園にも3千万程度、それから、都市計画そのものの管理経費で5千万、今正家で行っている区画整理事業にも充てている。

北側は、開発の可能性はあるのかなということで今は建設部で検討している。これからリニアを含め、7区・8区あたりのまちづくり、基盤整備のあり方を考える中で、北側の話も検討の議題としては出てくると考えているが、今の時点で何か決まっているわけではなく、今後の課題だと思っている。

■市民3 都市計画税は大井、長島が対象地域ということだが、そのお金は大井と長島の地域の都市計画事業に使われているということか。駅の北側は、全く計画が無いと言われるが、新栄町の道路は通学路であることを考えると、ぜひ対策しないと非常に危ない。通勤者の送り迎えもあるので、例えば駅の北側に駐車スペースをつくってお迎えの人たちの

広場をつくるという考え方もあると思う。一度検討頂きたい。

■市長 都市計画は、踏切を越えて寺平的ヶ屋敷線の都市計画道路の計画は有り、これそのものは計画路線としては線が引いてある。ただし、今のところ事業化に向けての動きが出来ていない。計画が無いわけではない。ただ、どこまで出来るかを含めて、少し検討させて頂きたい。引き続きそれぞれご相談させて頂く。

■市民2 駅前の駐車場が狭くて、色々な意見が上がっている。駐車場を広くしてもらいたい。17時から19時、みんな子どもを迎えに行くと渋滞になる。市長に一度その時間に行ってもらえば分かる。満タンで入れない。駐車場を広くしてもらいたい。

■市長 駅前の駐車場は、確かに私もときどき行くが、朝7時半ぐらいと夕方の6時から7時の間ぐらいが大変混んでいる。早朝は多少バスの運転もあるが、夕方はバスが動かなくなる時間、バスレーンも待つのに使っていることがあるようだ。運用も含めて直せるところがあれば行っていこうと思います。

■自治連合会会長 駅前の高齢化と空き家増の対策と道路整備について。駅前地区の高齢化と空き家、空き店舗の増加はかなりのスピードで進行している。このような状況の中で、洪水災害、大規模火災、不測の災害が発生したことを考えると、高齢者を誰がどのような手段で避難出来るかということが非常に恐ろしい。現在は南に逃げる道路が1本のみ。駅前に必要なのは東西に逃げる事の出来る広い道路だ。ちょっと乱暴な意見だが、空き家の取り壊し事業、移転事業等々によって、道路整備の時期は今がチャンスだと思う。行政の考えを聞きたい。

■市長 恵那駅前から阿木川を渡り、(株)ナカヤマさん、東海神栄電子工業(株)さん辺りの話だと思う。地元の何人かの方から、少し空き家もあるし土地も出来たので道路をつくってほしいという話をもらっている。出来るだけ早めに、地域の同意が得られたら、道路は進めたい。ただし、そこからJRをくぐって野尻野畑の方に入る道や、物理的に難しいところもあるので、出来るところをとということになるが、出来る限り前に進めたいと思っている。

■市民4 中山道をきれいに舗装して頂いた後、歩道と車道がフラットになり、きれいになり、朝子どもたちが大井小学校に登校する時も、下校の時も、長国寺の方から来る車がかなりのスピードで降りてくる。すれ違うときには歩道の線に入ってくる。子どもたちはきちんと登校してくれているが、見ていてヒヤッとすることがある。命にかかわることなので、一度でも事故が起こると心配だ。踏切のところも、見ていると怖いことがよくある。子どもたちの命を守るという点では、車のスピードを止めるということで、地元の人があ

そこをコミュニティー道路のように、かまぼこみたいにスピードが出ないように上げてくれたらどうだろうかという意見や、それだと夜やかましくなるとか、色々な議論がある。段差を付けると自転車の人が嫌だとか。そういう中で、子どもの命を守るためにどうしたら良いかということを工夫して頂きたい。

前川さんの話で言うと、あっち側に道路が開通すると朝降りてくる車が少なくなるのではないかと考える。それが先になるなら当面の安全対策を何かしてほしい。

■市長 中山道の歩道の美装についてのご心配だと思う。私も見に行った。石の色は変えてあるが段差がないので、大丈夫かなと心配して担当に聞いた。地元の皆様で議論された結果あんなったと聞いている。当面ようすを見るのかなと私どもは受け止めていた。今回こうした意見が出たので、改めて何か手直しが必要かは時間を頂き検討したい。

■自治連合会会長 個人情報開示について。自治区として敬老事業をしたり社会福祉の事業をしたり色々している。今年度、行政へ、例えば防災アカデミーの事業で表彰を受けられて補助金を出したいがどの人が受けたのかと聞くと、個人情報なので教えられないと。敬老事業では、誰が該当者か教えてもらわないと。ひどいときには、担当者が窓口に行ったら門前払いを食ったということだ。個人情報保護法の下に実際運営事業体の自治区にも開示されないことは、人命を軽く考えていると言えるし、防災アカデミー事業のようにボランティア活動の推進を阻害することだ。今後さらに高齢者が増加し、弱者支援が叫ばれている時代に、このような「教えてやらない」とかいうのは心配でならない。行政の改善の方向があるのか。市民をどう考えているのか。担当から聞きたい。

■危機管理課長 アカデミーを受け防災士の認定をされる人が増えており有り難い。大井町でも助成金をつくって頂いているので有り難いと思っている。対策はアカデミーを受けた本人に市から地域で活動して頂けるかどうかという趣旨を説明し、自治会への名簿の提供について同意を得るように努力した上で、防災士あるいは防災リーダーの名簿を提供出来るようにしたい。

■自治連合会会長 そんな難しいことはよく分からない。もっと簡単に言ってほしい。

■市長 個人情報のルールはあるので、本人に、市で了解を得て、了解を得られたらその情報は皆様に提示する。

■自治連合会会長 老人の名前はどこに誰が住んでいるか教えてもらえないというのはどういうことか。

■企画部長 敬老事業の名簿の提供について。公開しないというわけではなく、個人情報審査会に書類を出して手続きを踏んで頂ければ出ます。今年度出してもらえなかったということですが、長島は手続きを踏んで提供している。主催者の申請書、誓約書、個人情報を取り扱う者の署名をそろえて審査会に出してもらい審査会で了承されれば提供する。た



だ、審査会ということで、期間の余裕をもって出して頂かないと、1週間後に提供してほしいでは無理です。

■自治連合会会長 敬老事業の場合はそれで良いが、災害の時にそんな悠長なことは言っておれない。災害の時には、積極的に市がここにこういう高齢者がいて自治会にも入っていないというようなことを公表することを考えてほしい。最後は自治会長が、あそこの高齢者を助けなかったのはお前が悪いと言われることになる。市役所も責任を持ってないだろう。地域のことは地域で守らないといけない。危機管理の場合には名前を公表してほしい。人の命と個人情報とどちらが大切かよく考えて頂きたい。

■市民5 突飛なことを言うが、地域で話題になっている。共同墓地をつくってほしい。子どもたちもいないので、お墓を管理する者もない。そこで思ったのが、極楽という名前を使って、あの辺りに市の無宗教の共同墓地をつくって全国から募集する。寄付金を10万ぐらい出した人は優先的に入れるとか。事業として成り立たないか。それはともかく、共同墓地を検討してほしい。

■水道環境部長 市で持っている墓地もあり空いているところもある。市で共同墓地として売っている、あるいは共同埋葬するところは持っていない。

■市長 リクエストを頂いたので一度内部で検討する。

■自治連合会会長 恵那市の財政について。高齢化によって福祉事業を充実させないといけないう状況で、福祉事業は絶対的に黒字化が期待出来ないの、何らかの資金が投入されないといけないうと思う。資金が要るということを市民に理解して頂く活動が必要。市民の福祉用の施設を増やすとか福祉の質を制限するとか、自宅介護の推進をするとの決断が必要であると考え。さらに介護福祉士の給料も上げないと退職者が減らないし有能な人材が集まらない。さらに、これから福祉施設に入る人も増えてくると、学術的な考えがあつて非常に高度な知識を持っている人を介護する人がものすごく質が落ちると、介護にならないということも考えられる。そういう中で今後の福祉事業をどう考えているのか。金をつぎ込むのか、福祉をしないのか、人を入れないのか。

■副市長 特別養護老人ホームを例にして話す。平成27年度は待機者、申し込みをしている人が539人いたが、30年度は359人で減っている。32年度以降はより高齢者、介護を求める人が減ると思っている。実際にその人たちが入りたいということではなくとりあえず申し込んでいる人がほとんどだ。15%の50人ぐらいが今入りたいという人だ。その50人のうち、重度の人が一番早く、次が独居の人という優先順位を付けている。今のところ空きがない。ベッド数は、特別養護老人ホームは4施設あつて300床、老健が2施設で195床。

今、国では介護員の処遇改善を一つのキーにしている。29年度に国の方針が出た。消費税が31年10月に上がるので、このときに介護員の報酬も上げようということで、特に大きな財源を入れて介護員の加算、施設に対して加算を出すので、それによって給料が上がるので、これらを見ながら恵那市としては今の介護施設の数、あるいは施設を増やすと介護保険料が上がってしまうので、そのバランスを見ながら3年ごとの計画を見直したいと思っている。

■自治連合会会長 恵那市が今後、恵那は良いところだと感じるためには、恵那市の福祉施設に入ったら、金は高いが良い人たちが親切にしてくれる、というようにするか、安い放りっぱなしというようにするか、メリハリをつけるべき。多治見は名古屋に近いベッドタウンだし、中津川は下呂や高山に近いが、恵那はその中間でメリハリが付かない。メリハリを付けないと人の満足度が上がらないと思う。

■自治連合会会長 高齢化による地域活動参加者の減少。今まで定年が60歳なので、希望すれば65歳まで働ける社会になっている。近い将来には65歳定年、就労70歳というところに来たとき、私は今ちょうど70歳だが、死ぬまでの10年ぐらいで、地域活動にどれだけの人が尽力してくれてどれだけの活動が出来るかは、非常に難しいときが来る。そうなってきたときの地域活動、自治連合会の制度を少し見直さないといけない。今から市は10年ぐらい先の高齢者のボランティア、地域活動をどうしようとしているのか。やめるのか、続けていくのかを含めて、どういうビジョンを持っているか。

■市長 やるかやらないか、右か左かという極端な議論ではなく、現状で少しずつ見直すということだと考えている。60歳以上の人の働く場所の確保の話をした。人生が80年、100年と延びていく中で、老後の暮らしを考えると、元気なうちは働きたいと考える人が多くなるので、それに関して市としても出来るだけのことを行いたい。元気で働けることこそが、介護や、あとの心配をすることを減らす。元気で働けるようにすることがこれからの方向だと思う。その中で、地域を担う人がどういうところにいるか、もしくはいなくなっているということが、恵那市中の課題になっている。農業を担う人がいない、田舎の方ではそもそも地域の中で色々な役が回ってくるがそれをやる人は俺一人しかいないとか、色々な話を頂いている。行政からお願いする仕事のことも含めて、毎年でも良いし2年に1度でも良いが見直して、現状に合うように追いかけていくことが一つの方向だ。今の時点でどこかへ向かっていくということではない。常に見直す方向で考えていきたい。

## 6. 市長お礼のあいさつ

■市長 本日はありがとうございました。ご意見は担当とともに私どもで受け止めて、すぐに出来ること、検討しなくてはいけないことに分けて進める。市議会からも4名に来て

頂き感謝する。今日言えなかったことがあれば議員でも職員でも、前川会長でも振興室の職員でも良いので、伝えてほしい。何かしらアクションしていきたいと考えている。

■司会 これを終了する。

[ 閉 会 ]